



一人ひとりを大切に

「ともに学び、ともに育つ」教育の推進

市では、障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実を図り、すべての子どもが互いを尊重し高め合える「ともに学び、ともに育つ」教育を進めています。

みなさんは「発達障害」という言葉を聞いたことがありますか。発達障害とは、「生まれつき脳機能の発達がアンバランスだったり、凸凹だったりすることによって、周囲の人や環境とミスマッチが発生し、生きづらさや困難が感じられる障害」です。発達障害は特性や表れる困りごとによって、いくつかに分類されます。

小・中学校の児童生徒の中にも、そういった特性のある子どもがいます。各小・中学校では、子どもの特性をしっかり把握し、どのような指導や支援が適切であるかを分析して、個に応じた教育活動を展開しています。

また、学校施設や設備、制度や慣行など、学校生活を送る上

で障壁となる「社会的障壁」を取り除くために、何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられた場合、必要な合理的配慮を提供しています。

必要な合理的配慮は、それぞれの子どもの状態や学校の状況によって異なります。障害のある子どもやその保護者の願いを聞き、どんな配慮が必要なのか、何を優先して提供する必要がありますかなどを話し合います。相談を受ける際や合理的配慮を検討する際には、子どもの「最善の利益」を考えながら対話を重ねていきます。

求められている対応ができない場合でも、代替手段がないか、今できることは何かなどを組織的に検討し、子どもやその保護者に伝え、共通理解を図ります。子どものことについて困っていることがありましたら、家庭と学校、その他関係機関が連携し、よりよい支援方法を一緒に考えていきますので、学校または教育委員会へ相談してください。

学校園紹介



「あいさつを大切に」  
～日新小学校～

本校では、学校教育目標のめざす子ども像の中に「あいさつができる子ども」を掲げています。どの学校でも朝、登校してくる児童が元気よく「おはようございます」と挨拶をする様子は気持ちのいいものです。



子どもたちもマスクがあって聞こえにくい時もありますが、どの子どもも元気よく挨拶をしてくれます。こういった光景は、すぐにできるものではありません。これまでの継続した取組や家庭、地域のみなさんの協力があったからだと思えます。

昨年、その挨拶がもっと子どもたちに浸透するようにと横断幕を新調し、子どもたちの目につきやすい体育館横に設置しました。また、代表委員会や風紀委員会の子どもたちが、曜日を決めて正門前や玄関前で朝の挨拶運動を実施しています。たすきをかけ、一人ひとりに丁寧に挨拶をしている様子を見ると、こちらまでうれしくなってきます。朝のスタートが気持ちよくされるのも、この挨拶のお陰だと思えます。

**【プールができました】** 3月に正門海側にプールが完成しました。これまでの水泳は、末広公園にある健康増進センターの屋内プールで行っていましたが、今年からは敷地内にある日新小学校のプールが使用できるようになりました。コロナ禍での学校水泳となりましたが、子どもたちは笑顔で楽しむことができました。



「あたたかさを言葉で感じられる学校」  
～北中小学校～



「学びあい・響きあい・高めあい・認めあい・つながりあい」たくさんの「あい」があふれるあたたかい学校づくりを目指し、委員会が中心となって様々な活動が行われています。

毎月「2」と「8」のつく日を「ふわふわ言葉の日」としてあたたかい言葉を使う取組をしたり、委員会ごとに考えられたクイズや掲示、交流などで活動を活発にする工夫をしています。

職員室前の廊下には全校児童が書いたふわふわ言葉のメッセージで本校キャラクターをかたどった大きな掲示物がならんでいます。



コロナ禍でも、壁面を利用してコミュニケーションをとる工夫にあたたかさを感じます。1学期には大阪府立大学と連携した「命の学習」の授業や大阪体育大学と連携したプール授業も実施しました。また、心を育てていく「セカンドステップ」の授業も全学年で実施しています。ふわふわ言葉がとびかうあたたかい学校を目指してみんなで頑張っています！

